

ゆうたり
**本別町の勇足小学校の児童が本市を訪れ
 市内小学校の児童と交流を楽しむ**

本市と友好都市提携を結ぶ北海道本別町の勇足小学校の児童20名が7月22日から24日までの3日間、本市を訪れました。

初日は、市役所で濱田市長への表敬訪問が行われた後、ふれあいセンター立江で歓迎の夕べが開催されました。

歓迎の夕べでは、市内小学校10校から児童46名が参加し、勇足小学校の児童と一緒に阿波踊りを踊ったり、吹筒花火を鑑賞したりして、交流を楽しんでいました。

滞在2日目から3日目には、立江小学校や立江八幡神社などでも交流行事が行われ、勇足小学校の児童と立江小学校の児童が親睦を深めていました。

勇足小学校と立江小学校は、明治30年に当時の立江村の人々が北海道本別町を開拓した歴史が縁となり、平成3年に立江小学校の児童が勇足小学校を初めて訪問して以降、両校が互いに訪問し合い、今年で26回目の訪問となります。



市役所を訪れた勇足小学校の児童



歓迎の夕べで輪になって阿波踊りを楽しむ児童



大会で消防操法を披露する
市消防団第19分団の団員

消防活動の技術を披露

第30回徳島県消防操法大会が7月24日、北島町の県消防学校のグラウンドで開催され、本市代表として市消防団第19分団（地区：坂野町刈屋、分団長：舩越康博さん）が小型ポンプの部に出場しました。（出場者：村瀬裕昭さん、村瀬寛文さん、森山修次さん、岸田学さん、村瀬賢晃さんの5名1組）

同大会は、消防団員が放水作業の技術やスピードなどを競うもので、第19分団は惜しくも入賞を逃しましたが、迅速かつ正確な消防技術と息の合ったチームワークなど日頃の訓練の成果を披露していました。

港湾業務艇「ひのみね」就航

国土交通省四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所の新しい港湾業務艇「ひのみね」（全長17m、最大航海速度25ノット（時速約46km）、最大搭載人員20名、海底地形探査装置を常設）が完成し、8月5日に就航式が開かれました。

港湾業務艇の役割は主に、港湾工事の監督員の輸送や港湾施設の点検・測量、海洋ごみの調査などを行うほか、大規模災害時には、港湾施設の被災調査や航路の安全確保にも力を発揮します。

式典には濱田市長ら関係者が出席し、「ひのみね」が徳島小松島港の安全と発展を支える船となるよう祈願しました。



港湾業務艇「ひのみね」の前で行われた
就航式のテープカット